



TOKYO NEWS FLASH

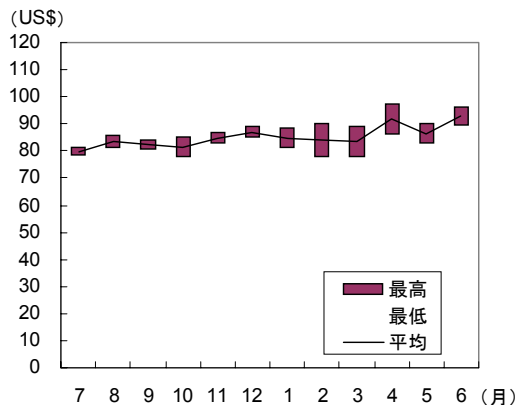
米国食肉輸出連合会 (USMEF)

Volume 242 June 16, 2003

米国食肉市場ニュース

～ 牛肉 ～

去勢牛の 100 ポンド (約 45kg) 当たりの価格
(オクラホマシティー・体重 600～700 ポンド)



資料 : Cattle-Glenn Grimes & Ron Plain

- 注 :
1. 2002年7月～2003年6月までのデータ
 2. 該当月の第1週のデータより作成 (2002年9月および2003年1月を除く)
 3. 2002年9・11月はイヤリングビーフ (若齢牛) による
 4. 2002年12月は体重650～700ポンドのイヤリングビーフによる

牛肉市況 (6月2～6日)

- **週間と畜頭数 :**
79万1,000頭 (前年比 8.5%増)。
- **枝肉重量の動向 (5月第4週) :**
去勢牛は前年比 17ポンド (約 7.7kg)、経産牛は同 20ポンド (約 9.1kg) それぞれ減少。3～5月の平均では同 17ポンド減。
- **と蓄牛およびボックス・ビーフの取引価格**
(100ポンド [約45kg] 当たり) :
週前半は堅調だったが、後半は軟調基調。主要5地域のと畜去勢牛の平均取引価格は、生体ベースで 79.72ドル (前週比 0.25ドル安)、枝肉ベースで 127.53ドル (同 0.36ドル安)。
- **牛肉の週間生産高 :**
枝肉重量の減少を受けて、前年比 5.3%増にとどまった。

● 牛肉の枝肉相当価格

(6日正午/1ポンド [約0.45kg] 当たり) :

チョイスは 1.48ドル (前週比 1.59セント安)、セレクトは 1.32ドル (同 0.19セント高)。100ポンド (約 45kg) 当たりのと畜牛価格は、生体ベースで前週比 16ドル高、枝肉ベースで同 27ドル高。

● と畜牛価格の動向 :

堅調な消費需要、と畜重量の減少、および BSE 発症によるカナダ産の牛・牛肉の輸入禁止措置により、6月初旬のと畜牛価格は過去最高を記録。昨年米国で消費された牛肉のうち、カナダ産牛肉は 4%、またカナダ産の牛で米国でと畜・加工されたものは 4%にのぼっている。

オクラホマシティーにおける去勢素牛の体重別、100ポンド (約 45kg) 当たりの価格 (US\$)

体重 (ポンド)	6月2～6日
500～600	94.00～105.50
600～700	89.50～96.25
700～800	83.00～92.25
800～1000	77.50～87.00

(Cattle-Glenn Grimes & Ron Plain, 6/6/2003)

～ 豚肉 ～

豚肉市況 (6月2～6日)

- **週間と畜頭数 :**
182万4,000頭 (前年比 3.2%減)。
- **年間累積と蓄頭数 :**
前年とほぼ変わらず。経産豚の総頭数に対する年間累積と畜頭数は前年比 7.5%増。
- **肉豚の取引価格 :**
ロインやバットを中心に、豚肉製品の卸売価格が大幅に回復したことが原因で、週明けの価格から 3.00～4.00ドル高で推移。
- **肉豚価格の見通し :**
回復が見込まれる。夏場は時節柄と畜重量が減少する時期であり、また3月の『Hogs and Pigs』は、夏季のと畜頭数を前年比約 2%減と予測している。リーンホッグの先物価格 (6日終値) を見ても、6月物は 66.17ドル (現在の現金)

価格を上回る)、7月物は 68.35 ドル、8月物は 69.47 ドルと、先へ行くほど高くなっている。8月に肉豚価格がピークを迎えるのはまれだが、1995年と1996年は8月に年間最高価格を記録している。

主要市場における 100 ポンド (約 45kg) 当たりの最高価格 (US\$)

	6月6日
ペオリア	44.00
セントポール	45.00
スーフォールズ	46.00
ミズーリ中央部	44.50

肉豚 (現金出荷) の枝肉平均価格 (US\$)

	6月6日
東部トウモロコシ地帯	61.33
西部トウモロコシ地帯	62.53
アイオワ・ミネソタ	62.39
全国	61.98

1 ポンド (約 0.45kg) 当たりの豚肉の製品価格 (6月6日正午/US\$)

製品名	価格 (前週比増減)	備考
ロイン	1.30 (+0.16)	21 ポンド (約 9.51kg) 以下、トリム 1/4 インチ
ポストン・バット	0.85 (+0.13)	卸売価格
ハム	0.46 (+0.05)	17~20 ポンド物 (約 7.70~9.06kg)
ポークベリー	1.00 (+0.0)	12~14 ポンド物 (約 5.44~6.43kg)

(Hogs-Glenn Grimes & Ron Plain, 6/6/2003)

業界ニュース

カナダの BSE、アメリカ市場に影響なし

カナダで 10 年ぶりに BSE が発生したが、カナダ・米国両政府と業界の迅速な対応により、影響は最小限に抑えられている。事例の詳細が明らかになるにつれ、米国の牛肉業界は急速に落ち着きを取り戻しているが、影響が広がる可能性もあるというのが大方の見方で、カナダでの調査の進展が今後を大きく占うことになりそうだ。症例が 1 頭のみであれば影響も最小限で済むと見られる。また、感染牛の原産地と感染原因の特定が不可欠で、感染牛から生まれた子牛や感染牛と接触のあった牛の追跡調査も重要である。

米国はカナダ産の牛・牛肉製品の輸入を禁止しており、この措置は上記の問題解決まで続くと思われる。

(Cattle Buyers Weekly, 5/26/03)

カナダ産牛肉の不足により 祝日前の買い付け増加

カナダで BSE が発生するまでは、牛肉需要の堅調・好調さが今年一番の話題であった。第 1 四半期の需要は予想を大きく上回り、牛肉の卸売価格は、5月26日の戦没将兵記念日前日まで 9 日間連続で最高値を更新した。小売価格も最高値を記録しているが、そのことで消費者の購買意欲がそがれることはなさそうだ。

実際、今年は米国消費者の牛肉志向が非常に強く、豚肉需要が伸び悩むほど。ボックス・ビーフは前週から軟調に転じると予測されていたが、市場では、BSE 問題により牛肉供給量が減少する恐れから、米国产牛肉の注文が急増した。

(Cattle Buyers Weekly, 5/26/03)

米国、食物システムにおける BSE の危険性を再検討

米国政府は 5月21日、農牧場、フィードロット、食肉工場について、BSE の国内流入を許すような脆弱性がないか、詳細な見直しを開始した。

米国農務省 (USDA) は、消費者に対して国内の BSE 発生の危険性は低いことを再度強調する一方、必要に応じて BSE 阻止のためのさらなる措置も辞さない姿勢を見せている。

10 年ぶりの BSE 発生で経済的打撃の危機にさらされたカナダは、BSE 症例とされた 8 歳の牛の原産地調査の過程で、さらに牧場 2 カ所を隔離した。

米国は 20 日、カナダからの反芻 (はんすう) 動物 (複数の胃を持つ牛、ヤギ、羊などの動物) の輸入を当面、全面的に禁止した。USDA では、今回の BSE 感染牛が米国内に滞在したことがないかどうか調査中とのこと。

(Forbes, 5/21/03)